

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	ミュージカル実習Ⅱ	
開設学科	声優・演劇科		コース名	俳優・タレントコース		開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	70時間
単位数	2単位					授業形態	実習
教科書/教材	授業時に適宜配布する						
担当教員情報							
担当教員	佐々木彩			実務経験の有無・職種	有・演奏家、声楽家、音楽講師、女優		
学習目的							
この科目では、ミュージカル実習Ⅰで学んだスキルを活かしさらに発展させ、歌唱表現の向上を目指すこと、より声優・演劇の現場に適応した歌唱技術を発揮できる能力を向上させることを目的とする。ミュージカル実習Ⅰと同様に様々なジャンルの曲を歌唱し、表現に必要な技術と知識を深めることにより、多様化する業界の現場でのニーズを見極め、柔軟に対応する力を養い、自己の進むべき進路や業界に即した歌唱技術をミュージカルという手法へ応用し、習得することを目指す。							
到達目標							
この科目では、ミュージカル実習Ⅰで学んだスキルを活かしさらに発展させ、歌唱表現の向上を目指すこと、より声優・演劇の現場に適応した歌唱技術を発揮できる能力を向上させることを目的とする。ミュージカル実習Ⅰと同様に様々なジャンルの曲を歌唱し、表現に必要な技術と知識を深めることにより、多様化する業界の現場でのニーズを見極め、柔軟に対応する力を養い、自己の進むべき進路や業界に即した歌唱技術をミュージカルという手法へ応用し、習得することを目指す。							
教育方法等							
授業概要	始めに歌唱に必要なウォーミングアップを行い、その後スコアを基に読譜し、様々なスタイルの歌唱を行う。歌いやすい曲で基礎力を養い、ソロ曲やコーラス曲、日本のポップスなど色々なジャンルの歌唱スタイルを学びミュージカルへと発展していく。課題曲に応じてソロ歌唱、グループ歌唱を適宜に取り入れる。ミュージカル実習Ⅰで養った技術をさらに高めるように、人前での自己表現・自己アピールを習慣化し、表現力を養い、観客に伝える力を身につけていく。ストレッチや発声など継続的に必要な練習を自主的に習慣化する力を養う。						
注意点	ウォーミングアップ、歌唱練習に支障のない動きやすい服装で授業に臨むこと。授業中の私語や受講態度等には厳しく対応する。社会への移行、実践で活かすことに留意し、課題の予習復習と体調管理の継続性を意識した態度で参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することはできない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	50%	試験・課題の完成度、課題に対する取り組みの積極性において評価する。				
	小テスト	10%	授業内に口頭やプリントへの記入形式で随時行い、読譜・音楽用語の理解度によって評価する。				
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業内の各課題発表の表現力、事前準備への態度によって評価する。				
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度、コミュニケーション力によって評価する。				
授業計画（1回～10回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	様々な歌唱スタイル1			ポップスのデュエット曲でリズム感・ハーモニーを掴む			
2回	様々な歌唱スタイル2			英語の歌詞に触れ、発音・フレージング・表現方法について理解する			
3回	様々な歌唱スタイル3			レコーディングを想定し、必要な技術を学び実践する			
4回	ハーモニーの応用トレーニング1			アカペラの課題曲で音感力・聴力を養い、パートの正確な音程を掴む			
5回	ハーモニーの応用トレーニング2			コーラスの課題曲でパートの役割を考える。フレーズとハーモニーの表現力、一体感を養う			
6回	ミュージカルナンバーを歌う4			課題曲の音程・リズム・歌詞を把握する。作品・役柄についての理解を深める			
7回	ミュージカルナンバーを歌う5			役柄と場面に合った表現を考え、パフォーマンスを取り入れた歌唱を目指す			
8回	オーディション対策トレーニング1			総合的な表現力とパフォーマンス、マイクパフォーマンスを考え実践する			
9回	オーディション対策トレーニング2			グループ歌唱での自己PR、ライブパフォーマンスを考え実践する			
10回	授業内発表・個別指導			課題曲を歌唱し技術の正確性と表現力を発揮できるようにする			